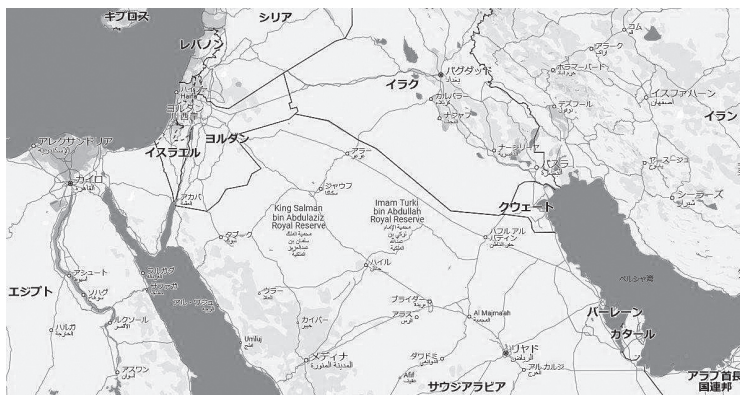


## 第11章 イスラエルは中東（西アジア）に配備された航空母艦だ！



マイケル・ハドソン教授「イスラエルは中東に配備された航空母艦だ」



これまでの章で説明してきたように、このようにNGOを使った政権転覆活動、いわゆる「カラー革命」も、だんだんと本性が暴露されてきたので、最近ではなかなか成功しなくなってきました。その典型例がジョージア（旧名グルジア）です。

ここでは二〇〇三年に「バラ革命」を成功させ、政権転覆作戦の成功例として東欧各国に輸出されました。そして、これが、ウクライナの二〇〇四年「オレンジ革命」、二〇一四年の「マイダン革命」につながりました。

同じことを二〇二四年に、もういちどジョージアで実現しようとしたが、今度は成功しませんでした。ここでは、親米政権を選挙で倒した『ジョージアの夢』の党首コバヒゼ首相が、「第2のカラー革命」を阻止するためのNGO規制法案を、親米の女性大統領の拒否権をくつがえして成立させたからです。

つまり、この規制法案を阻止するために、NGOを使った暴力的大衆運動がCIAの指導の下に展開されたのですが、「オレンジ革命」で欺<sup>だま</sup>されたことに気づいた多くの議員が、大統領の拒否権にNOを突きつけ、無事にこの法案を成立させたのでした。

これを報じたのが次の記事です。

\*Ukrainization of Georgia will not happen prime minister (ジョージアでは「ウクライナ化」は起こさせない、と現在のコバヒゼ首相が断言)

<https://www.rtl.com/russia/599699-georgia-ukraine-foreign-agents/> 21 Jun. 2024

そもそもこの法案は、ロシアのRT放送局の活動をアメリカが規制するためにつくられた法律でした。

が、その内容はアメリカ案よりはるかに規制のゆるいものでした。

それをバイデン政権は「民主主義を破壊するもの」と声高に非難し、「成立させるな」と制裁を武器に脅迫していました。

次の論考は、政治学者グレン・ディーセン (Glenn Diesen) が、自分の体験もふまえて書いた論考です。裏で CIA が資金提供した NGO が、「人権」を口実に、「政権をいかに不安定化させてきたか」を詳述しています。

\* How the US government uses NGOs to corrupt 'civil society' around the world (アメリカ政府は NGO を利用し、いかにして世界中の「市民社会」を腐敗させるのか)  
<https://www.rttom.com/news/599262-us-government-uses-ngos/> 14 Jun. 2024

## 2

さて、このように NGO を使った政権転覆がうまく行かないとなると、次はどんな手段が考えられるでしょうか。

それには二つの方法が考えられます。ひとつは戦前の日本が満州国という国をつくりあげ、それを拠点にして中国への支配を広げようとしたように、傀儡<sup>かいらい</sup>国家をつくるという方法です。

こうすれば現地政府の軍部を抱き込んでクーデターを起こす必要もありませんし、政権転覆したい国に巨額の資金を流し込んで NGO を育て上げ、「人権」を口実にした「カラー革命」を仕組む必要もありません。

イスラム原理主義集団によって二〇一四年に建国を宣言したISIS（「イラクとシリアのイスラム国」、略称「イスラム国」）はラッカを首都とし、シリア北東部の砂の平原の町々においては、電気や水の供給、銀行・学校・裁判所などだけでなく、礼拝所やパン屋にいたるまでがISISによって運営されていたと言われています。

このISISについて櫻井ジャーナル（2015.2.22）は次のように書いています。

このところ「テロ」の象徴に祭り上げられているのがIS（イスラム国、ISIS、ISILとも表記）だが、ウェズリー・クラーク元欧州連合軍（現在のNATO作戦連合軍）最高司令官は、これを作り上げたのはアメリカの友好国と同盟国だとCNNの番組で語った。

ISを作り上げたのはアメリカ／NATOやペルシャ湾岸の産油国であり、イスラエルも支援しているということは本ブログで何度も書いてきた。つまり、内容自体は驚きでも何でもないが、その発言をした人物がアメリカ陸軍大将ということは興味深い。

調査ジャーナリストのシーモア・ハーシュは、ニューヨーカー誌の二〇〇七年三月五日号で、アメリカ、イスラエル、サウジアラビアが秘密工作を開始したと書いた。シリアとイランの2カ国と、レバノンのヒズボラをターゲットにした秘密工作だ。

クラーク將軍はISを創設した国の名前を具体的には書かなかったが、イスラエルとサウジアラビアが含まれている可能性は高いと言える。

ここで注目すべきは、ISISをつくりあげそれを支援してきたのが、イスラエルとサウジアラビアだという事実です。これについては、後で再度ふれますので、記憶にとどめておいてください。

このISISについて櫻井ジャーナルは、別の記事(2015.02.22)で次のようにも書いています。

本ブログでは、ISISに対して行っているというアメリカ軍の「有志連合」による空爆に疑惑があると何度も書いてきた。

昨年九月に最初の空爆があったが、最初に破壊されたビルは、その15日から20日前の段階で蛇の殻<sup>もみ殻</sup>だったとCNNのアーワ・デイモンは翌朝の放送で伝えている。少なくとも情報が漏れていることは確かだろう。

アメリカにはスパイ衛星、偵察機、通信傍受、人的なスパイ網などがある。イラクのファルージャやモスルをISISが攻撃している状況、戦闘集団の動きを把握していたはず。にもかかわらず、傍観していた。

写真を見ると、ISISの戦闘集団はトヨタ製の車を連ねて進軍しているので、この時に空爆すれば壊滅的な打撃を与えることができたが、パレードをやらせている。



白昼堂々とトヨタ製の車を連ねて進軍する、イスラム原理主義集団「ISIS」

—「絵になる場面」を作ったとも言える。

つまり米軍はI S I Sを攻撃しているように見せかけているだけで、実は守っていたのです。そしてアサド大統領のシリアを攻撃させ、石油地帯を確保する役割をさせました。

それに堪<sup>堪</sup>りかねてアサド大統領がロシアの支援を求め、プーチン大統領がその求めに応じてロシア軍がシリアに派遣した結果、I S I Sは徹底的に攻撃され、今はほとんど実態をとどめていません。ところがアメリカはいまだにI S I Sが占領した油田地帯に居座り続けて石油を盗掘しています。

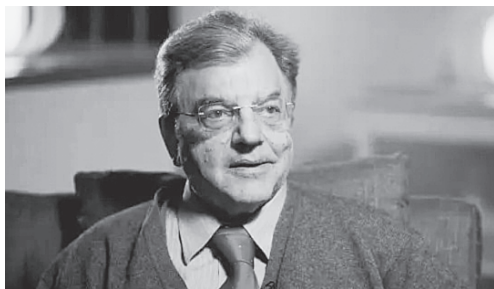
ロシアは、アメリカと直接の戦争になるのを怖れたのでしょうか、これは放置されたままです。

元アメリカ財務次官ポール・クレイグ・ロバーツが、「プーチン大統領のお人好し、彼の戦略戦術は生ぬるすぎる」と怒っている理由は、このあたりにもあるのかも知れません。それにしても、アメリカの元高官がこのような発言を続けていることは極めて興味深い事実です。

## 4

先にはアメリカがNGOを使って政権転覆をはかる際に利用する手段に二つあり、そのひとつが傀儡<sup>かいらい</sup>国家をつくりあげることだと述べました。それが、I S I Sというイスラム原理主義集団の国家だったわけですね。

が、先述のとおり、これはシリア大統領アサドがロシアに援助を求めたことにより頓挫<sup>とんざ</sup>しました。そこでアメリカは中東支配のために次の手を打たねばなりません。その最も簡便な手段は、かつての大英帝国



世界的に著名な経済学者マイケル・ハドソン教授

がつくりあげた傀儡<sup>かいらい</sup>国家イスラエルとサウジアラビアを利用することでした。

イスラエルは現在、ガザ地区で大虐殺<sup>あやむき</sup>を繰り返して、それをアメリカ政府も支持してきたわけですが、あまりにも虐殺<sup>あやむき</sup>ぶりがひどいので、「アメリカの権威」「世界の覇者<sup>はしゃ</sup>としてのアメリカの地位」を引き下げる役割も果たしています。

それはともかくとして、アメリカが中東支配の道具としてイスラエルを利用してきたことは間違いない事実です。ときどきイスラエルがシリアをミサイル攻撃して世界を驚かせることがありますが、これもアメリカの命令によるものとしか考えられません。

というのは、シリアはイスラエルにたいして一度も攻撃したことがないので、イスラエルがシリアを攻撃する理由がありません。私はいつもこのことを不思議に思ってきたのですが、これはアメリカの戦略に従ったものだと考え、やっと納得できました。

しかしイスラエルの行動は、「シリアの転覆をイラン転覆へとつなげる」、つまり「アメリカの中東支配の大きな戦略のなかで動いている」と考えると、シリア攻撃が無理なく理解できるようになりました。

このことを私に確信させてくれたのは世界的に著名な経済学者マイケル・ハドソンにたいする次のインタビューでした。これを説明していると長くなりますので、以下、節を改めて説明します。

\* [Israel as a Landed Aircraft Carrier

「イスラエルは中東に配備された航空母艦―アメリカの真の狙いはイランだ」

<http://runmethodblog.fc2.com/blog-entry-2169.html> (『翻訳NEWS』2024-01-02)

## 5

まず司会者のベン・ノートンは、インタビュに入る前提として中東の現状について次のように説明しています。

この分析において、私は経済学者マイケル・ハドソンがご一緒していただける光栄に浴しました。後で彼にこのトピックに関する詳細を提供していただく予定ですが、最初にこの関係を理解するための非常に重要な基本的内容を強調したいと思います。

つまりイスラエルが、世界で最も重要な地域のひとつにおけるアメリカの地政学的力の延長であるという事実です。このことを強調することは極めて重要です。

実際、ジョー・バイデン大統領が上院議員だった一九八六年当時、「イスラエルが存在していないかったなら、アメリカがそれを発明するしかなかっただろう」と発言したのは有名な話です。

御覧のとおり、バイデン大統領は上院議員だった一九八六年で、すでに「イスラエルが存在していなかったなら、アメリカがそれを発明するしかなかっただろう」と言っているのです。

そしてバイデンは、二〇二二年一〇月二七日、イスラエルのイツハク・ヘルツォグ大統領とホワイトハウスで会談した際も、また最近の二〇二三年一〇月一八日のイスラエルでおこなった演説でも、この言葉



を繰り返しました。

御覧のように、アメリカは傀儡<sup>かいらい</sup>国家 I S I S の設立・維持に失敗した結果、かつての大英帝国がつくりあげたイスラエル（とサウジアラビア）という国を借用して利用せざるをえなくなったわけです。

イスラエルが地政学的に見て極めて重要性を増してきた要因は、次のような事情にありました。そのひとつの事情は一九七九年のイラン革命でした。

上のインタビュー記事でハドソン教授は次のように語っています。

歴史的に中東に関しては、アメリカはいわゆる「二つの柱」戦略に頼っていました。西の柱はサウジアラビアで、東の柱はイランです。

一九七九年のイラン革命まで、イランは独裁者である国王によって統治されていました。彼はアメリカの支援を受け、この地域におけるアメリカの利益に貢献していたのです。

しかし、一九七九年の革命によって、アメリカは二本柱の戦略の柱のひとつを失い、イスラエルはアメリカにとって、この極めて戦略的な地域の支配を維持するためにますます重要になってきました。この地域には膨大な埋蔵量の石油とガスがあるというだけではありません。世界有数の石油・ガス産出国の多くが西アジアにあるという事実だけではなく、地球上で最も重要な交易ルートのいくつかがこの地域を通過しているという事実もあるのです。